

藤野健司

長島愛生園を訪ねて（二〇一九年夏）

島のはずれの

かつての高校の跡地

蝉の声の他

音一つしない構内

閉校からもう三十余年

校庭も 石碑も

まだ新しいように見えた

近くの海岸に腰を下ろす

潮風が気持ちいい

でもこの地で

その時の若者には同じ景色が

どう見えたのだろうか

卒業した者が決して戻ることのない

学校の跡

朽ちることに抵抗するように

見えた。

曇った空で

小豆島は見えなかった